

## ヒメマルカツオブシムシ

平成24年度末のことです。いつものように調査研究室で実体顕微鏡を覗いていました。ふと、横にある白い珙瑯（ほうろう）製バットを見ると、小さな虫が7～8匹いるのに気が付きました。調べると、すべてヒメマルカツオブシムシでした。この虫は昆虫標本から発生することがあり、日頃の掃除を怠った報いと思って机上の標本を調べたのですが、その痕跡はみられませんでした。そこで、部屋の隅に落とした標本から発生したのかと思い、床の隅々まで探したのですが見当たりません。おかしいなあ？と思いながら何気なしに上方を見ると・・・いました！なんと陳列していたキイロスズメバチの巣の一つにヒメマルカツオブシムシが大発生していたのです。その量に鳥肌が立つ思いでした。おそらく巣に残っていた幼虫の残骸やフンに発生したのでしょう。すぐに巣を外に持ち出してビニル袋を被せ、殺虫剤を噴霧して駆除しました。しかし、更なる恐怖が訪れる予感があったのです。

## ヒメマルカツオブシムシの特徴

同じ仲間には、よく知られるヒメカツオブシムシという虫がいます。どちらも名前から想像できるように、幼虫は鯉節のような乾燥魚介食品を食害します。その他に動物や昆虫の乾燥標本、はく製やみなさんが大切にしているウールや絹などの衣類も食べます。衣類用防虫剤を入れ忘れて、次に着ようとした時、穴が開いていてショックを受けたことはありませんか？

この虫は、300日ほどを幼虫で過ごして3～4月にサナギになり4～5月に成虫になります。成虫は約10日間、その場で交尾して30～60個の産卵を終えた後、明るいとこを好んで外に出てきます。花粉や蜜などを餌にしますが、特に白い花（キク科のデイジー、マーガレットなどの花）を好むようです。白い珙瑯製バットで多く発見したのは、花の色と勘違いしたためかもしれません。そこで、気づいたのですが成虫が外に出てきたとなると、すでに産卵していることとなります。キイロスズメバチの巣には大量の卵が産卵されていると考えなければなりません。経過観察することになりました。

## 対策

- (1) ヒメマルカツオブシムシを家に持ち込まないように気を付けましょう。白系統の花（ヒメカツオブシムシはツツジなど）を好みますので、これらの花を家庭に持ち込む時は、虫が付いていないか注意して下さい。また、ヒメマルカツオブシムシは、外に干している白い洗濯物などに付いて室内に侵入します。そして、餌となるウールなどに卵を産み付けます。
- (3) 発生源になる乾燥食品類（動物系、植物系）は密閉保存してください。また、床を掃除して餌となる虫の死骸などのゴミをなくしましょう。



虫を発見！（H25.3.29）



すべて  
ヒメマルカツオブシムシ



発生したハチの巣



ハチの巣の拡大 その1



衣類などを食べる幼虫



成虫



ハチの巣の拡大 その2